

洛東園 だより



■平成25年4月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>

ご挨拶 ～温～

社会福祉法人 洛東園 評議員 松永 洋子

寒さの中にも、少しずつ陽が長くなり、春の訪れを感じさせてくれています。職員の皆様には、温かい介護、行き届いたお世話を頂き、誠にありがとうございます。

私は雪の便りを聞くと、生まれ育った石川県での雪に埋もれた生活を思い出します。

朝食が終わった「いろり」の廻りには、ぐるりと長靴が並べられていて、兄妹達はそれぞれにホカホカになった長靴を履き、出かけました。波が引いたかのように静かになった後、母はいろりの上にやぐらを置き「こたつ」で一服したり、ご近所の方々とお漬物等をつまみながら、井戸端会議を楽しんだと聞いています。

隣の居間にもこたつがあり、学校から帰り、もぐりこむと「顔を突っ込むなや!」と母の声が聞こえる(※現在とは違い、練炭こたつでした)。こたつはかくれんぼの恰好の場所で、鼻先を布団の間から出して見つけてもらうのを待ちました。

こたつの上には炒り豆やおかきが菓子盆に置いてあり、「また、カキ餅か」と不満そうに言うと、「贅沢言うな」と父に怒られました。大人たちは冬が来る前に忙しくせせとお漬物やおやつを作って、春までの間を辛抱強く待ったのです。

近所のお年寄りから頂いた干し柿も干し芋もおいしかった。2月の旧正月の、豆やゴマ、エビ入りの色とりどりの寒餅作りは家族総出の作業です。日を置いて太い餅を薄く切り、藁に結んで竹竿に吊り下げるとカキ餅のすだれができます。子供たちは賑やかに走り回り、簡単な手伝いもしました。子供のころの食べ物を思い出せば、懐かしい温もりがいっぱいです。

家の構造も家族の形もすっかり変わり、都会の人達のみならず、田舎でも若い人の間では、お金を出しておやつを求める時代になりましたが、私は故郷や幼い昔を思い出すと、いつの時も心が温まります。

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設

■ 地域包括支援センター 温かい便り



地域包括支援センターに届いたお便りをご紹介します。

昨年、姪夫婦の住む川西市のグループホームに姉妹で転居しました。
妹・美菜はすい臓がんの手術と8カ月の入院生活に耐え健康を回復しました。
姉・佳菜は所内一の人気者で皆を和ませています。
かつての教え子や同僚・先輩方の訪問や文通で旧交を温めています。
今年の目標は「自分へのご褒美と社会へのお役立ちで充実した1年を過ごす」横
浜国立大学大学院教授とともに南米「パラグアイ」に小学校を建設中。その第1校
目が3月に開校し美菜が名誉校長に就任します。



左は有馬温泉に姪御さん夫婦と
ともに一泊旅行した時の写真で
す。右は所内の運動会で選手宣
誓をする美菜さんです。



佳菜さん・美菜さん(仮称)は、東山区で生活を
続けてこられた姉妹です。姉の佳菜さんは認知
症を患っておられますが、とても朗らかで穏やか
な方です。妹の美菜さんは長年、市内の中学校
で校長を務められたしっかり者。お二人で支え
あって生活を続けておられました。私達は、時折

「お変わりありませんか？」と訪問させていただ
き、近況を尋ねるという関わりを2年ほどさせて
いただいていた。

『受診を拒んでいる美菜さんを、すぐ連れてき
てくれ。命にかかわるんだ!』と主治医の先生から
連絡を受けたのは、昨年、年明けのとても寒い日

の出来事でした。皆で手分けして、「姉さんを一人で置いていけない」と泣く美菜さんを受診にお連れし、入院手続きをしました。佳菜さんの受け入れ先を探し、状況の理解できない佳菜さんに、そこに暫くの間、滞在するように説得して送り出し…、姪御さん夫婦も駆けつけてくれました。その後、佳菜さんは、グループホームに転居され、美菜さんは長期入院生活を余儀なくされ

ました。その間、美菜さん、姪御さん夫婦とともに悩み考えた末に、佳菜さんのいるグループホームへの転居を決意されました。

現在、お二人は川西市の施設で、姪御さん夫婦との交流を深め、仲良くお暮しです。このお便りのお二人の温かい笑顔を見ると、あの時、寒さの中、奔走した皆が「温かい」気持ちになります。

□ デイサービスセンター 人と人との温もり



デイサービスで利用者さんを迎えに行くと、近隣の方々から「あら、〇〇さん、おはよう。今日はデイサービスの日なんやね。今日も頑張ってるのよ」「寒いね。気を付けてね」と声がかかります。私たち職員にとって、それはよく目にする光景ですが、人と人との温もりが感じられる瞬間です。

認知症対応型通所介護サービスに通うMさんは、おひとりで生活をされています。デイサービスに行く曜日も、そうでない日も、真夏でも真冬でも、朝早くから橋の横に立って送迎車が到着するのを待たれています。送迎時間・送迎ルートが毎回同じでない為、必ずしも早く到着できるとは限りません。「今日はどこにおられるのか」「寒い中、外にはいないだろうか」と、気になりながら向かうと、近隣の方が「さっきまでいはいったけど、家で待ってるように言っておいたよ」と私たちに声

をかけて下さいます。近年、様々な理由で近所付き合いが少なくなり、隣住人の名前や顔を知らない方は多いと思います。そんな中、近隣の方が、自分たちの出来る範囲でMさんを助け、支えて下さる姿に、毎回胸が温かくなります。

超高齢化社会を迎えようとする日本ですが、高齢者の方が住み慣れた家や馴染みの場所で安心して生活できるように、これからも人と人との繋がりがや近隣の輪がもっと広がってほしいと思います。



□ 特別養護老人ホーム「洛東園」 お出かけ日和



陽も徐々に長く気候も暖くなり、お出かけに適した季節となりました。特養でも利用者さんと一緒に、ドライブをしたり買い物や外食に行ったり、外出の機会を増やす取り組みを行っています。また「そんなたいそうな」と外出に消極的な利用者さんにも、四季を感じて頂けるように園の前にある大きな桜の木を見に行ったり、東福寺まで散歩に出かけて気分転換が出来るように心がけています。

外出が大好きなNさんは毎月1回、外出の機会を作っています。11月には紅葉を見に嵐山まで行かれたり、12月や1月は寒い中でしたが買い物や水族館に行かれました。

毎月1回の外出は、介護職員が1名付き添い2人でゆっくりと時間を気にすることなく過ごされます。Nさんから「かばんが買いたいし高島屋に

行きたいねん」と希望を言われたり、介護職員がお勧めのスポットや美味しいご飯屋さんを調べ、案内してくれるのを楽しみにされておられます。「今度は水族館やって。楽しみや」と満面の笑みで他の職員に話してくれます。また「今日は何日や」と何日も前から外出の日を確認され、当日は何時間も前から好みの服を選び身支度を整え、お出かけの時間を待たれます。

Nさんは聴覚障がいの為、他の利用者さんとお話されることが少なく、テレビを観る等で自身のペースで1日を過ごすされることが多いですが、外出の計画を立てる時や外出中の満面の笑み、帰ってこられてからの話を聞かせてもらう事が我々職員にとっては心温まるひと時となっています。これからも多くの利用者さんと温もりのある「お出かけ日和」を計画させていただきます。

■ 養護老人ホーム 手編みのマフラー



生きてると様々な温もりを感じることがあります。その中でも手作りの物は体だけではなく心まで温めてくれます。

養護老人ホームに入園されている山口さんは、毎年冬を迎える頃になるとマフラーを編み始めます。お部屋に伺った時の事です。畳に座り、二本針と赤い毛糸を使って慣れた手つきでマフラーを編んでおられました。編み物は昔からの趣味だったそうで、冬には完成するようにと毎年11月頃から毛糸を用意されます。最初は編み上げたマフラーを他利用者の方にあげたのが始まりでその後、洛東園祭に出品したり、職員や職員の家族のものも編むようになったそうです。

山口さんにマフラーを編む思いを聞いてみました。

「寒い中、自転車とかバイクとかで出勤してきたり、夜勤中も私ら寝てるところを見回ってくれたり



職員には感謝してる」「病気せんと頑張ってほしいし、仕事中にちょっとでも温かくしてやろうと思って編んでるんや」と話されました。当初は長いマフラーを編んでおられましたが通勤中にタイヤに巻きついたら危ないと悩んでいたところ園長からマフラーに穴を作って通してみたらとアドバイスをもらったことで今の形になったそうです。出来上がったマフラーを職員に渡した時の喜んだ顔、マフラーをして通勤している姿を見ているのが、とても嬉しいと笑顔で話されていました。これからも大好きな編み物は、手が動く限り一生続けていきたいと様々な色の毛糸を準備されています。

私たち職員は、日々利用者さんの思いや温かみに触れ、力を頂いております。今後も利用者さんお一人お一人の思いを大切にしながら、安心して暮らして頂けるよう支援していきたいと思っております。



■ 訪問介護

ヘルパーの心得



日々、暖かくなってきましたが、まだまだ三寒四温の状態です。桜の開花が始まり、春はそこまで来ています。漸く、長い冬から解放されると思うと、嬉しいかぎりです。

ところで前文に登場した「三寒四温」の「温」という言葉の意味をご存知でしょうか？

温泉、温室、体温、など「あたたかい」という意味がある事は、ご存知かと思います。しかし、それ以外にも意味があります。

例えば、温和、温厚などの「おだやか」

温存などの「大切にする」

温習、温故知新の「おさらいする」などがあります。

これらの意味は、ヘルパーが仕事を行う上で必要不可欠な事なのです。

私たちは、次のように利用者さんに援助を行っています。

- ① 食事の際は、適温にして用意し、おいしく召し上がって頂けるようにしています。
- ② 援助をする際には、コミュニケーションをとりながら、穏やかな雰囲気の中すすめています。
- ③ 使用する物品は、破損などしないように大切に扱っています。
- ④ 研修会などに参加し、介護技術を見直し、新たな技術の会得に努めています。

このように「温」という言葉が持つ意味は、ヘルパーが日々心がけている援助と繋がっている事だと思います。

私たちは援助をするだけでなく、利用者の皆さんとコミュニケーションをとりながら、心まで温かくする援助を心がけています。

■ 特別養護老人ホーム「修道洛東園」 温もりのある生活

修道洛東園では、園内行事を月に2～3回、企画しています。内容は津軽三味線や大正琴の演奏会、小松谷保育園のピアノ演奏会、同志社大学の音楽ボランティアの演奏会、東山区保健センター主催のイスに座って出来る体操会と多岐に渡ります。ご案内のポスターを玄関やエレベーターの中に掲示させていただくと、散歩中の利用者さんや面会に来られたご家族から、「今月はこんな事やるんやー。ほな〇〇しはる人、私が聞いてみたげよか?」と、行事の企画に協力して頂けることもあります。

今回はいつも行事の企画に協力して下さる谷口さんをご紹介します。谷口さんは修道洛東園で開設当初より生活されています。幼稚園の園長を務められて、退職後はボランティアグループ「一番星」を設立、代表として色々な取り組みをされていました。現在でも多くの方々と繋がりを持って

おられ、人脈を活かして色々な行事を企画して下さいています。ピアノの腕前を活かしたピアノコンサートでは、ご自身で司会進行をしながら、参加された利用者さんを盛り上げておられました。他にもシャンソンを聞こうの会、沖縄民謡、落語の会を企画され、職員と協力しながら日程調整から演者の方への連絡等を取りまとめまでして下さいます。利用者さん、ご家族、ご近所の方々の参加で50名以上に上ることもありました。

谷口さんは、繋がりのある方々へ細やかな連絡、感謝を大切にされています。面会に来られる方も多く、その細やかな心配りに、私達職員も身の引き締まる思いです。谷口さんを始め、地域の皆様のお力をお借りして、今後も笑顔あふれる行事を企画して、楽しみと温もりのある生活を送って頂けるように取り組んでいきたいと思っています。



もみじの家

暖かく温もりのあるもみじの湯

もみじの家のお風呂は、利用者さんお一人お一人がゆっくりと入浴して頂けるように「個浴」になっています。

「個浴」は、利用者さんと職員の二人きりの空間を作りだします。その空間を利用して、普段は言いにくい事や、プライベートの話などをされる事があります。そんな利用者さんのお一人、Mさんも気になっているお相手の話をして下さいます。

Mさん「大きなお家に一人でいはるんです…寂しいと思います」

職員「どうしてお一人だと思われるんですか」

Mさん「用事があって行くと、いつも出て来はるのはその人です。寂しいと思います」

職員「よく行かれるんですか」

Mさん「用事がある時に行きます。娘にね、そんなに好きやったら結婚したらいいやん、って言われます。もうこんなおばあさんやのにね」

と、頬を緩めながら話されます。

二人きりの空間で思いを話していただけるのは、「もみじの家に行けば、知った顔の職員がいる。風呂では周りの人を気にしないでお話ができる」という、安心感を利用者さんが持たれるのだと思います。これからも、もみじの家の「もみじの湯」で、体もこころも温まって、いただきたいと思います。そして、利用者さんの思いを今後の支援に繋げて行きたいと思います。



洛東園の行事予定

施設名		月	4月	5月	6月
養護老人ホーム			花見会	日帰り食事会	屋内ゲーム
特別養護老人ホーム	洛東園		お花見ドライブ	菖蒲湯	買い物ツアー
	修道 洛東園		お花見	家族交流会	地域交流会
デイサービスセンター			お花見	端午の節句	俳句の会
もみじの家			お花見	外出行事	梅ジュース作り
全体			新人研修	*****	開山忌法要

..... その他、クラブなども随時行っております。

洛東園だより

発行／社会福祉法人 洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794

電話番号:561-1171 FAX:531-8372

ホームページアドレス

<http://www.wf-rakutouen.com>

※尚、記事中の写真、実名表記は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。

寄付・寄贈

【寄付金】

鎌江 孝様、故北村 千佐子様ご遺族様、橋本 清様、大釜 諦順様

【寄贈品】

京都日吉ヶ丘ライオンズクラブ様、三村 繁武様